

科目	地理総合	学年	第1学年	開講	通年	必修	2 単位
----	------	----	------	----	----	----	------

教科書： 帝国書院「高等学校 新地理総合」「新詳高等地図」
副教材： 帝国書院「高等学校 新地理総合ノート「新詳地理資料COMPLETE」(クラウド配信版)

1 学習の到達目標

現代の地理的な諸課題を地図や地理情報システムなどを用いて調べたりまとめる技能を身につける。国際理解と国際協力についても地理的な見方・考え方を働かせて多面的・多角的に考察する力を養い国際社会に主体的に生きる人としての自覚をもたせる。

- 2 学習計画及び評価方法
- a 知識技能
 - b 思考・判断・表現
 - c 主体的に学習に取り組む態度

学期	項目	単元	学習内容	学習のねらい	月	考查	評価の観点			
							a	b	c	
前期	第1部	第1章 地図と地理情報システム	地球上の位置と私たちの生活	緯度の違いは、私たちの生活にどのような影響を与えているか多面的・多角的に考察し理解する。	4		○	○		
			時差と私たちの生活	時差は、私たちの生活にどのような影響を与えているか多面的・多角的に考察し理解する。			○	○		
			地球儀と地図・身の回りの地図	なぜ地図にはさまざまな図法や用途があるのか多面的・多角的に考察し理解する。			○	○		
			統計地図の種類と利用	統計地図にはどのような種類があり、どのように使い分けられるかなど、基本的な技能を身につける。			○	○		
			地理情報システム(GIS)の利用	地理情報システム(GIS)は、どのように活用されているかを、多面的・多角的に考察し理解する。			○	○		
		第2章 結び付きを深める現代世界	現代世界の国家	国境の種類、国家の領域、国家の主権について、多面的・多角的に考察し理解する。	5		○	○		
			日本の位置や領域	日本の位置と領域、排他的経済水域の特徴、日本の領土問題について多面的・多角的に考察し理解する。			○	○		
			国家間の結び付き	国際関係と紛争の変化、国連が果たす役割、経済のグローバル化と地域ごとの経済的な結びつきについて多面的・多角的に考察し理解する。			○	○		
			貿易によって結び付く世界	貿易の変化と国際分業の成立、自由化する世界の貿易について、多面的・多角的に考察し理解する。			○	○		
			さまざまな交通網の発達	私たちの生活を支える陸海空の交通網は、どのように発達してきたかを、多面的・多角的に考察し理解する。			○	○		
			世界を結ぶ通信網の発達・観光のグローバル化	ICTの発達で変化する生活行動、ICTの生み出す格差について多面的・多角的に考察し理解する。			中間	○	○	
	第2部	第1章 生活文化の多様性と国際理解	大地形、変動帯、安定地域の人々の生活	地形をつくる営力、大地形を構成する変動帯と安定地域について多面的・多角的に考察し理解する。	6		○	○		
			河川がつくる地形、海岸の地形と人々の生活	河川がつくる地形、海岸の地形は、人々の生活にどのような影響をあたえているか多面的・多角的に考察し理解する。			○	○		
			気温・降水、大気大循環と人々の生活	気温・降水・風は人々の生活にどのような影響を与えているか、分布の特徴など多面的・多角的に考察し理解する。			○	○		
			世界の植生と気候区分	植生と気候の関わり、ケッペンの気候区分について多面的・多角的に考察し理解する。	7		○	○		
			熱帯・乾燥帯・温帯・亜寒帯・寒帯の生活	気候と植生は、人々の生活とどのように関わっているか多面的・多角的に考察し理解する。			期末	○	○	
			追究事例 自然1・オセアニア	安定地域が広がる大陸と起伏に富んだ島々、地域によって大きく異なる気候や自然環境を生かした生活文化や産業について多面的・多角的に考察する。					○	○
			追究事例 自然2・東南アジア	季節風の影響を受ける人々の生活、季節風を利用した交易の歴史、様々な民族が共存する社会について、多面的・多角的に考察する。					○	○
			追究事例 宗教1・イスラームと人々の生活の関わり	乾燥地域で暮らすムスリムの農業と人々の生活を豊かにした石油資源と地域格差について多面的・多角的に考察する。					○	○
			追究事例 宗教2・ヒンドゥー教と人々の生活の関わり	南アジアの民族とヒンドゥー教との歩み、宗教と食生活の関わり、工業とIT産業の発展による生活の変化について多面的・多角的に考察する。					○	○
			前期 授業評価							○

後期	第2部	第1章 生活文化の多様性と国際理解	追究事例 歴史1・移民の歴史と人々の生活の関わり	ラテンアメリカに移り住んできた人々の多様な文化融合により、どのような社会構造、生活文化が形成されたか多面的・多角的に考察する。	9	中間		○	○			
			追究事例 歴史2・植民地支配の歴史と人々の生活の関わり	サハラ以南アフリカでの、植民地支配の歴史と人々の生活文化や産業との関わりについて多面的・多角的に考察する。				○	○			
			追究事例 歴史3・国家体制の変化と人々の生活の関わり	世界初の社会主義国だったロシアは現在新しい国づくりを進めている。国家体制の変化が人々の生活や社会にどのような影響を与えたか多面的・多角的に考察する。				○	○			
			人々の生活を支える農業・工業の発展	農業・工業の発展は、人々の生活にどのような影響を与えているか多面的・多角的に考察し理解する。				○	○			
			グローバル化する現代の産業と人々の生活	産業のグローバル化は、人々の生活にどのような影響を与えているか多面的・多角的に考察し理解する。				○	○			
			追究事例 産業1・産業力が世界の生活文化に与える影響	アメリカ合衆国の産業は、人々の生活にどのような影響を与えているか多面的・多角的に考察する。	10				○	○		
			追究事例 産業2・経済成長による人々の生活の変化	中国や韓国の経済急成長の歩み、経済格差、環境問題、人口移動と一極集中について多面的・多角的に考察する。					○	○		
			追究事例 産業3・地域統合が人々の生活や産業に与える影響	EUの統合によって、ヨーロッパの人々の生活文化はどのように変化してきたか多面的・多角的に考察する。					○	○		
		第2章 地球的課題と国際協力	複雑に絡み合う地球的課題	現代世界のさまざまな地球的課題について、その背景には何があり、課題解決に向けて私たちは何ができるかを多面的・多角的に考察する。(SDGs)	11	12		○	○			
			地球環境問題	地球環境問題にはどのような種類があり、その発生原因や問題解決に向けての取り組みを多面的・多角的に考察し理解する。					○	○		
			資源・エネルギー問題	エネルギー資源や鉱産資源の利用にはどのような課題があるか。また、持続可能なエネルギーの利用方法について多面的・多角的に考察する。					○	○		
			人口問題	世界の人口分布と人口増加の傾向、人口ピラミッドからみる地域人口の特徴や人口問題とその対策について多面的・多角的に考察し理解する。					○	○		
			食料問題	発展途上国と先進国について、食料需給に偏りが生じる原因と食糧問題を解決するための取り組みについて多面的・多角的に考察し理解する。					○	○		
			都市・居住問題	国や地域によってどのような都市・居住問題があり、どのような対策(メキシコシティとポーランド)が行われているか多面的・多角的に考察し理解する。					○	○		
	第3部	第1章 自然環境と防災	日本の地形・気候	日本の地形や気候にはどのような特徴があり、地形の形成過程や気候の地域差が生じる理由など多面的・多角的に考察する。	1	6	期末		○	○		
			地震・津波と防災	地震や津波は、どのような被害をもたらすか。また、災害に備えて、どのような取り組みが必要か(東日本大震災と阪神・淡路大震災での防災の取り組み)多面的・多角的に考察する。						○	○	
			火山の恵みと災害	火山の分布、火山の恵み、火山災害の特徴について多面的・多角的に考察する。	6		期末			○	○	
			火山と共生する地域の取り組み	火山の恵み・災害と共生する島原市と鹿児島市の取り組みについて多面的・多角的に考察する。	1		2	期末		○	○	
			さまざまな気象災害とその取り組み	地域で異なる気象災害、都市化による水害の変化について多面的・多角的に考察する。							○	○
			減災の取り組み・被災地への支援	天災の被害を減らす取り組みや被災地に必要な支援について理解し、自助・共助・公助・復旧・復興の取り組みについて多面的・多角的に考察する。							○	○
		第2章 生活圏の調査と地域の展望	地理的な課題と地域調査	生活圏の地理的な課題を探究するためには、どのように調査を始めればいいのか考察する。	3				○	○		
			現地調査の準備	現地調査の前には、どのような事前調査や調査計画の作成を行えばいいのか考察する。						○	○	
			現地調査の実施	現地調査を効率的に行うには、どのような準備や行動が必要か考察する。						○	○	
			調査の分析と発表	調査結果をまとめて発表する際には、どのような工夫をしたらよいか考察する。						○	○	
		後期 授業評価								○	○	○

3 評価の観点

＜評価算出方法＞ 各観点100点満点で算出する。
 ○知識・技能 : 定期考査(70%)＋小テスト、基本的な語句の確認(教科書音読など)、資料集や地図帳での確に調べ学習ができることなど(30%)
 ○思考・判断・表現 : 定期考査(60%)＋レポート、プレゼンカ(発表力、表現力)など(40%)
 ○主体的に学習に取り組む態度 : 平素の授業態度、提出物、出席率、ノート、発言、忘れ物、授業準備など(100%)